令和５年度「一般選抜後期日程試験（個別学力検査・小論文）」講評

後期小論文課題における出題の意図

本学では「地域社会のみならず、広く国際社会の課題の探究と解決に、主体的に取り組む姿勢を持つ人」を求めている。この求める人物像（アドミッション・ポリシー）を踏まえ、小論文課題では、３つの資料を提示した上で、外国人への偏見や差別にどのように取り組むか、受験生の考えを問うた。

提示した３つの資料は、身近なところにある外国人への偏見や差別の問題を指摘し（資料１）、ステレオタイプや偏見の生じるプロセスを、カテゴリー化、内集団と外集団、内集団ひいきという認知メカニズムの特徴から説明している（資料２）。さらに、グローバル社会における多様性とはいつでも変化しうるダイナミックな多様性なので、私たちはいつでもマイノリティになりうるダイナミックな存在であることを踏まえ、偏見や差別を自分自身の問題として考えることが重要であると述べている（資料３）。

課題１では、偏見や差別の生じるプロセスを資料２から読み取り、その考えを用いて資料１に示した現実社会の問題を説明するよう求めた。受験生が、テキストの内容を正確に読み取り、それを現実社会の問題につなげて思考し、適切に表現する力を身につけているかどうかを問うものである。課題２では、資料３の内容と自分自身の経験を踏まえて、受験生自身の偏見や差別への取り組みを尋ねた。本学では社会の課題に主体的に取り組む姿勢を持つ人を求めている。課題２は、受験生が社会の課題解決にどのように取り組もうとしているのか、その姿勢を問うものである。

課題１の評価ポイント

課題１では、資料１に示した外国人に対する偏見や差別をカテゴリー化、内集団と外集団、内集団ひいきというキーワードを適切に使って説明できるかどうかを評価した。受験生の多くは課題に適切に答えていたが、プロセスの理解が不十分である受験生、キーワードを適切に使用して表現できない受験生も散見された。考え方の枠組み（理論）を用いて、日常的な現象を説明する力を磨いてほしいと思う。

課題２の評価ポイント

課題２では、受験生が、自分自身もグローバル社会の一員であることを認識した上で、偏見や差別の問題を自分事として捉え、主体的に向き合おうとしているかどうかを評価した。特に、「グローバル社会における多様性」を適切に読み取り、自分自身の経験も加えて、具体的に主張を展開する思考力と表現力を評価した。受験生の多くは課題に沿って具体的に主張を展開していたが、自分の経験だけを述べていた受験生や具体性のない一般的な主張を述べていた受験生も見られた。テキストの内容から自分自身の経験を捉え直す思考力とそれを主張する表現力を磨いてほしいと思う。